

地域発・防災ラジオドラマ グループ名「北条市民レポーター編集会議」 タイトル 「地域の絆で子供を守る」

地震の発生

平成23年10月25日、月曜日、午前九時半

震源地

新潟県中越地域

地震の規模

柏崎市北条地区 震度6強

場面となる場所

北条小学校及び北条中学校

テーマ

平日に於ける地震発生直後の児童の安否確認及び保護者への引き渡し

登場人物

小先生

北条小学校の先生

小校長

北条小学校の校長先生

小教頭

北条小学校の教頭先生

中校長

北条中学校の校長先生

中教頭

北条中学校の教頭先生

田中の母

金太の父

山澗責任者

町内会の避難誘導班長

荒川真実

北条小学校5年生

猪俣

山澗町内の住人

洋平の父

山澗町内 佐藤洋平の父

金太

北条小学校5年生

健太郎

北条小学校6年生

美咲

北条小学校6年生

消防団員

地域消防団長

10月25日、もうそろそろ寒さが訪れる季節になり、地域の人たちは、秋野菜の収穫に忙しく働いていた。北条小学校の子供たちも何時もどおりに教室で授業を受けていた。

教室の窓からは紅葉が始まった八石山の頂から、朝日が強い光を放っている。ところが9時半を過ぎた頃、突然強い揺れとウオーという音とともに地震が発生、地面が割れるかと思うような地鳴りが響いた。ここは5年生の教室である。

小先生：それでは金田くん、答えてください。

金田：えーと、235だと思えます。あっ、揺れた！地震だ！

突然、「ガタガタガタ」と強い揺れと大音響が。

小先生：みんな机の下にもぐれ！

子供たちの悲鳴やざわめきが聞こえる

防災行政無線：「こちらは広報柏崎市です。ただ今柏崎地域で強い地震を観測しました。柏崎で震度6強、高柳で震度5強、西山で震度5弱でした。海岸に近いところは、津波に注意して下さい。揺れの大きい地域では隣近所に声を掛け合い安全を確認して下さい。

今後、余震が起きる可能性があります。危険な建物や崖の近くには近づかないでください。火の元を確認して落ち着いて行動して下さい」

(繰り返し)

小先生：みんな大丈夫か。揺れが治まったので、これからグラウンドに避難する。足元に気をつけながら落ち着いて行動しなさい。

子供たちのガヤガヤという声

小校長：あわてるな！ケガはないか？子供たちはここに学年別に並びなさい。教頭は欠席児童の氏名・学年、町内会をただちに確認報告せよ。

先生と子供たちの確認する声が搜索する

地域災対本部：「北条地域災害対策本部から各自主防災会に発令。コミュニティは建物被害発生につき、本部を北条中学校に移設する。本部への無線交信はしばらく待て！なお、コミュニティを避難所とする町内会も全て中学校へ避難せよ」

地域災対本部：「災害対策本部を中学校に開設した。被害状況を速やかに報告せよ。」

被害状況を把握した自主防災会から本部に随時報告される。

地域災対本部：「災害対策本部より自主防災会に連絡。柏崎・越路線の山澗地内の村山石材店前の橋が崩落し、通行不能。関係する町内会の責任者は迂回路を確認し、中学校へ誘導願います。」

小教頭：児童欠席者の報告をします。「2年生・村山洋子・大広田町内会」、「5年生・丸山太郎・山澗町内会」、「6年生・小林公一・東条町内会」の3名です。

小校長：分かりました。すぐに無線で本部に連絡し、安否確認をしてもらいます。

「こちら北条小学校、本部応答願います」。

防災本部：こちら災害対策本部どうぞ。

小校長：欠席児童3名の安否確認を願います。「2年生・村山洋子・大広田9番地・電話〇〇〇」「5年生・丸山太郎・山澗1111番地・電話〇〇〇」「6年生・小林公一・東条570番地・電話〇〇〇」以上

防災本部：本部了解・校長は避難経路の安全を確認し、児童を速やかに中学校に誘導せよ。

小校長：了解。災害伝言板に避難先が北条中学校と入れて非難します。

小校長：これからみんなは中学校に避難します。あわてないで教頭先生の指示に従って行動しなさい。

相変わらず弱い余震が続いている。子供たちは、校長先生と本部の無線交信に、一層の緊張感と不安な表情をみせながら、教頭先生の後に続く。

小教頭：道路のあちこちに穴があいています。よそ見をしていると田んぼに落ちますよ。その先の踏切は電車は来ませんが、足元に注意してわたりなさい。

小教頭：ここ（中学校）が避難所になります。具合の悪い人はいませんか。これから地域の人やお家の人を迎えに来てくれるので心配しないでください。それまでは、先生方のいうことをよく聞いて行動してください。

北条中学校長は中学生の安否確認異常無しを本部に報告、小学校児童の到着を

待つ。以後の指示は北条中学校長に移行する。

中校長：教頭先生、町内の責任者が間もなく到着すると思います。小学生と中学生を町内毎に分けてください。

中教頭：はい分かりました。子供たちは自分の町内の名札があるところに並びなさい。特に中学生は小学生の面倒を見てください。

子供たちは、町内会別の小中統合班を編成し、保護者や地域の人たちを待つ。

【小学校校長のモノローグ】

二つあった小学校が一つに統合され、子供たちの通学距離は長くなりました。授業中に地震が発生することを想定すると、被災の程度によっては、小学校だけでは対応できず、地域との連携が必要な事態も考えられます。また、バスで通学している子どもたちも多く、家まで帰すにも町内毎にまとまって帰す必要があります。

家族に引き渡すまでは、顔の知った地域の皆さんから預かってもらうことが、子どもたちの安心感に繋がります。その地域の皆さんに引き渡すには、児童の名簿が必要になりますが、保護者との話し合いで、町内毎の名簿があれば子供たちの安否確認は早いということを理解していただき、連絡先の記入された町内ごとの名簿を作る事ができました。昨年は小中共有の合同名簿を作り、訓練を行いました。

各町内からも伝言板を見た保護者や避難者、責任者が続々到着。また、近くの町内会からは炊き出し用具も運び込まれている

田中の母：フウー、やっと着いた。あつ、金太さんちのお父さん、お家のほうは大丈夫でしたか。3回ですよ、3回。どうして北条ばかりこんな目に合わなければならぬでしょうね。

金太の父：あつ、田中さん、ご苦労さんです。田中さんは会社からどうして来ましたか。柏崎の町中もひどいと聞いているけど、とりあえず、家族が大丈夫だと分かっただけでもホッとしているところです。

田中の母：今回は鳥越付近がやられたらしいので、裏道通ってやっと来たんだけど、2時間かかりました。親が遅くなっても、子供たちは町内会で預かってもらえることが去年の訓練で分かったので、それだけでも安心できます。

金太の父：俺なんかさ、会社で「北条は防災訓練ばっかしていて、バカみたいだ」と笑われていたけど、あの訓練がなければ今頃、半狂乱になつていたと思うよ。コミュニティや町内会のありがたさを初めて分かった気がしますわ。

猪俣：おめえさん方、こんなところでしゃべくつていねえで、はよ向こうへ行つて子供たちに親の顔でも見せてやるねか。

中教頭：エー、皆さんお静かに願います。各町内の責任者は子供たちのリストを渡しますのでこちらに来て下さい。

山澗責任者：オーイ、山澗の子供はこっちに集まれ！

町内会の責任者は自分の町内名を呼び上げ、予め用意された町内、児童、保護者、連絡先が明記されたリストをもとに、駆けつけた保護者に引き渡しが始まる。

山澗責任者：次は「荒川？しんじつさん？」とは読まないよな。

荒川真実：しんじつじゃありません。まことです。

山澗責任者：なあしたア。「まこと」だと。最近男だか女だか分からん名前や、読み方が分からん名前が多くて困るがの。この名前は誰がつけたんだ、まこと？父ちゃんか？

荒川真実：父ちゃんじゃありません。パパです。それに名前を付けたのはママです。

山澗責任者：何でもいい、次！

いろいろ難読な名前に戸惑う

猪俣：猪俣だども、うちの孫を預かるようにと親に言われてきたんだけど、どこにいるろつか。

洋平の父：佐藤洋平の父です。お世話になりました。何かお手伝いすることがあったらさせてください。

保護者への引き渡しが進む

昼近くにはほぼ保護者への引き渡し完了するが、数人の保護者が来ることができない。

中校長：教頭先生、子供たちの引き渡しはほぼ終わったようですが、町から保護者に引き渡されない子供たちは後何人残っていますか。

中教頭：後5名です。長岡や柏崎市内に勤めていて連絡が取れない親や、道路が傷んですぐに来られない親がいるようです。

中校長：その子供たちは保護者が来るまで町内の人たちに預かってもらいましょう。

金太：お昼のキンコンカンが鳴ったけどさ、給食はないし、僕たちのお昼はどうなるのかな。

健太郎：あゝ、腹へってきた。

小教頭：これから地域の人がお昼の炊き出しをしてくれるそうです。よかったですね。

金太：ヤッター、先生本当だよね。

自主防災会は2回の地震を教訓に炊き出し用の資機材も整備してきた。自主防災会単位に米や持ち寄った食材を利用して避難者の炊き出しを作る。

金太：今、のぞいてきたら、僕たちの町内は、おにぎりとトン汁を作っていた。

健太郎：いいなあ。僕たちはカップメンが並んでいたけど、それだけかな。

美咲：私たちの町内は、おにぎりとカップの味噌汁が準備されていたわ。

健太郎：みんないいなあ。金太のところへもらいに行ってもいいかな。

全町内会が米を炊き、おにぎりを作った。炊き方は色々で、プロパンにガス炊飯器、カマドに薪、発電機を使って電器釜でも大丈夫だった。1升の米で33個のおにぎりができることも分かった。普段、挨拶を交わすこともなかった人が必死に手伝ってくれ、見直した等々、炊き出しの中にも感動と地域の絆が生まれていた。後で分かったことだったが、一町内会のおにぎりの中にジャコと山クル

ミが入っていて、それを食べた女子生徒の具合が悪くなった。大事は至らなかったが、その子は、ナッツアレルギーを持っていたことを知り、炊き出し一つにも人命に係ることが起きることを学んだ。

防災本部：「防災本部から小学校へ。2年生の村山洋子、5年生の丸山太郎の無事を確認したが、登場の6年生、小林公一は確認できず。風邪を引き、郡病院の小児科に行った模様。引き続き調査を行う。」

消防団員：「こちら消防団、消防自動車からは直接、消防署の無線に繋がるので連絡してみます」

不安なBGM

しばらくすると地域コミュニティラジオの「FMピツカラ」から、北条防災本部が東条町内の小林公一くんを探しているとの放送が流れ、病院にいた小林君のお母さんから無事の連絡が入った。

【小学校校長のモノローグ】

災害発生時に、児童生徒の安全管理を誰がするのかという議論があります。しかし、これは択一的に考えるのではなく、関係者の連携・共助のありかたとして考えるべきだと思います。

昨年の訓練で、PTAや中学校とともに参加し、課題を共有できたことが今回の引き渡しをスムーズにいかせたのだと思います。

「北条」という絆の中で、小中が連携し、更には、各町内会と学校が協力して児童生徒の安全を確保することが大切です。

より安心な北条防災システムを築くためにも一層の連携を深めていかなければならないと思います。

一番大事なのは、隣近所、町内同士の足と手で繋ぎ合う絆ではないでしょうか。

BGM流れEND